



(例題1)

問、次の傍線部①と④の主語を答えよう。

(注1) 村上の前帝の御時に、雪のいみじう降りたるけるを、様器に盛ら<sup>①</sup>せ給ひて、梅の花をさして、月のいと明きに、これに歌詠め。いかが言ふべきと兵衛蔵人に賜<sup>②</sup>はせたりければ、雪月花の時<sup>③</sup>と奏したりけるをこそ、いみじうめでさせ給ひけれ。  
(『枕草子』)

(注1) 村上の前帝の御時…村上天皇の御治世。

2. 兵衛蔵人…村上天皇に仕えた女房。

3. 雪月花の時…『白氏文集』の漢詩句を引用したことば。

① ( ) ② ( ) ③ ( ) ④ ( )

(解説)

村上天皇の御治世に、雪 ( ) 降っていたのを、①が様器に村上の前帝の御時に、雪のいみじう降りたるけるを、様器に盛りなさて、梅の花を( )として、月 ( )に、せ給ひて、梅の花をさして、月のいと明きに、

①最初、雪を様器に盛りつけたのが、村上天皇の治世の誰なのか、わからない。「給ひは」( ) ( )がエライ人！現時点のエライ人候補は ( ) だけなので、一旦、主語としておきます。

これをデマに和歌を詠め。( ) 詠むべきかと兵衛蔵人に②が「これに歌詠め。いかが言ふべき」と、兵衛蔵人に賜はせたりければ、雪月花の時と③が ( ) のを、④はたいそう雪月花の時と、奏したりけるをこそ、いみじうめですさせ給ひけれ。(お褒めにな。た)めですさせ給ひけれ。

②「賜はす」は ( ) 「なので、①と同じですねー」といふことで、これも主語は ( ) です。

③「奏す」は重要！「奏す」は、「 ( ) です！これは絶対敬語と言われるモノで敬われる相手は決まっています！もう一つ「啓す」も大事で、これは「 ( ) となり、訳すときは、〇〇に」の部分も忘れないようにしましょう！



③とこのこととで、( )が( )に「奏した」とわかる。  
このでカン違いしないように押さえておきたいポイントは…

### 「ポイント①⑥ 謙譲語のポイント」

謙譲語が示すのは、

「とこのことのみ！」

主語についてはノータッチ。だから謙譲語だけなら主語は「  
で決まりー」。

身分が低い方から高い方へとか、エラクない人からエライ人へとか、  
そういうのは考えない！ 謙譲語はとにかく「エライ人が相手」という  
ことだけを意識しよう！

④「めでさせ給ひけれ」の「給ひ」は( ) ( )なので、( )がエライ人、  
この段階で登場しているエライ人は( ) だけ！

正解 ①・②・④ ( ) ③ ( )

### 「ポイント①⑦ 敬意の対象」

① 尊敬語→( )がエライ人！( )に対する敬意

② 謙譲語→( )がエライ人！( )に対する敬意

③丁寧語→( )へのマナー！

・ ( )・「」の中なら( )が誰をエライと思っているか。

### （例題2）

（寂しい山里に祖母の尻上と暮らす姫君の噂を耳にした宮は、そこに通う  
宰相という女房に、姫君との仲を取り持ってほしいと訴えていた）

「宰相の君はこれにて侍るにや」と対面すべきよし聞こえ給えり。驚きて、  
「いがし侍るべき。宮のこれまで尋ね入らせ給へるにこそ。かたじけなく  
侍り」といそぎ出でたり。仏のかたはらの南面に、おましなどひきつへ  
るひで、入れ奉る。」（センターニ〇〇本試『小夜衣』）

問：波線部の敬語は誰に対する敬意を示しているか？ 〔 〕

(解説)

①「奉る」は(

)なので、「と訳す。」

( )に対する敬意！「入れ奉る」とあるのだ。

② 本文を確認(誰が誰に、を意識！)

「が」宰相の君は( )

「」

宰相の君はこれにて侍るにや「↓宰相の居場所を聞いている！→誰が？」

↓前書きから、( )とわかる！

と、対面した( )を

。( )は(驚いて、「どうしましょうか」

と、対面すべきよし聞こえ給入り。

驚きて、「いかがし侍るべき。」

( )の訴えに対して驚いたのは誰か？→前書きから恐ろしく( )

宮( )これまで尋ねて

( )のだらう。恐れ多いことです。」

宮の、これまで尋ね入らせ給へるにこそ。かたじけなく侍り」と、

急にでてきた。仏間の( )の南面の部屋に

いそぎ出でたり。仏のかたはらの南面に、

お席を整えて

誰を？→( )とわかる！

おましなどひきつくりひて、入れ 奉る

(例題3)(↑例題2の続き)

うち実み給ひて、「このほど尋ね聞ゆれば、このわたりにも少し給ふなど聞きて、これまで分け入り侍るに、おぼし知れ」など仰せらるれば、「に、かたじけなく尋ね入らせ給へる御心ざしこそ、かたはういたく侍れ。老い人の限りにわづらひ。侍るほむに、思果て侍らんとて、籠もりて」など申すに、「ちやうにおはしますらん、不便に侍り。その御心地もつけたまはらんとて、わざと参りぬるを」など仰せらるれば、内へ入りて、「かうかうの仰せ言こそ侍れ」と聞こえ給へば、……。

※老い人…尼上のこと。

問、波線部bの敬語はそれぞれ誰に対する敬意を示しているか？

b [ ] c [ ] d [ ]



(解説)

b. 「給ふ」は ( )  
( ) ↓ ( )  
( ) に対する敬意! ↓ ( )  
( ) がエライ!

( )は少し笑いなさって、今回、お尋ね( )  
うち笑み給ひて、このほど尋ね聞こゆれば、

「まにがとばとも」

『このあたりに』  
このわたりにもものし給ふなど聞きて、

②「ポイント！」（「と」などを見たり）

地の文に尊敬語が使われているのは、( ) (聞こえ給えり(例題2))なので、  
うち実み給ひも同じ！その後、セリフが始まるが、ここでポイント！

「ポイント⑮」の中の主語

「の中で書いていないの主語がハッキリしないとき」

①尊敬語があるなら  
↓  
主語は（ ）！

謙譲語だけ

②丁寧語だけ  
尊敬語がないなら→主語は（ ）！

敬語ナシ

「対等に話せる相手のときは主語は（ ）or（ ）」

「このほど尋ね聞こゆれ」たのは、（ ）（ ）（ ）で、「き」があるので主語が変わるかもと予測しつつ、「このわたりにもやし給ふ」をしたのは（ ）（ ）つまり今回の話し相手である（ ）（ ）だとわかりますね！

（人の礼儀を表す！）

「ここまでやってきました私の気持ちを、（ ）はお分かりになってください」  
 22 これまで分け入り侍る心ざし、おぼし知れ（ ）が

[illegible]

本当に、もったいなく、尋ねていらした

Q2-3 など抑せらるれば、(は)げに、かたじけなく尋ね入らせ給へる

お気持ちには  
恐れ多いです。

は御心ざしこそ、かたはらいたく侍れ。

（）でいきますので

23.4 老い人の、  
限りにわづらひ侍るほどに

今回の話し相手は、（ ）なので、これがCの答えとなる。ちょっとゴツチャに  
なりやすいので、「誰が誰に」は常に意識しよう！

『( )見終えぬ』と( ) (おぼろしく)籠もりて(おぼろしく)籠もりて  
 14. 見果て侍らん(と)て 籠もりて

d. 聞こえは( ) ( )に對する敬語。

おぼろしく( )に申上げぬ(と)て( ) (おぼろしく)が  
 24.5 など申す(と)て 「おぼろしくおぼろしく申す(と)て」

おぼろしく( ) ( )も( ) ( )と( )  
 25 不便に侍り。 その御心地もつけたまはひん(と)て

おぼろしく( ) 参上したのです「おぼろしくおぼろしく( )」  
 25.6 わざと参りぬるを「など仰せらるれ(と)ば」

( )は 中へ入りて、 上のような仰せ言が( )と  
 26. 内へ入りて、 「かうかうの仰せ言こそ侍れ」と

( )に申し上げなせぬと...  
 27. 聞こえ給へば、...

( )のことばを聞いた( )が、そのことばを誰に伝えるのかを  
 考へるゝその相手は( )しかない。

よして正解は...  
 b. ( ) c. ( ) d. ( )  
 とかな。

どうですか？ 慣れない内はややくしく感じると思いますが、古文を読む  
 上で敬語は切、でも切り離せないの、毎回こつこつ読んでいきましょー！

尊敬語・謙譲語・丁寧語もみんな、エライ人をエライと思って  
 「主語」「目的語」「目的語の話し相手」と分けてみるだけ！  
 誰かを敬、てこるゝは、どれも同じことばであることを忘れずに！